

# 頑張れ店長

## この一年、業界の底力は

### 10月から業績回復

今年3月の東日本大震災、それに続く計画停電、業界上げての復興支援、新台の発売延期、中古機の品薄、輪番休業などで、多くのホールは大きな影響を受けました。そんな2011年もやがて幕を閉じます。各地のホール店長さんに今年を振り返っていただく恒例の「今年の出来事」です。

### あの日、即座に電源切る

「3月11日のあの日、震度5強の揺れに見舞われ、『これはただ事ではない』と判断して遊技機の電源を落としました。遊技機が稼働していると逃げ遅れる人がいるからです。昼下がりの時間帯で稼働は2〜3割だったのが幸いでした。混乱もなくお客様をお帰しすることができました。余震が続く中で、建物の損壊、玉・メダルの運搬パイプの点検などを行い、店を閉じて出たのが午後7時頃。道路は渋滞で帰宅できたのは夜中の12時を

回っていました。それからは計画停電や輪番休業などに振り回されて半年以上も震災一色でした。ようやく10月に入って日常を取り戻した感じですよ」(関東・A店長)

4月以降、A店長は店のスタッフと一緒に何回か被災地に入り、ボランティア活動を行なったそうです。「今年2月、ホールを7年ぶりにリニューアルしました。工期2週間という突貫工事が終わって無事オープン。順調に滑り出したとたんに大震災です。店の被害はなかったのですが、計画停電や輪番休業で出鼻をくじかれたかっこうです。それでも照明や空調は省エネを取り入れたため、お客様にご不便をかけなかったし、そのおかげか集客も周辺店に比べれば上々で、思わぬところでリニューアルの効果を確認できました」(関東・B店長)

来年の夏も節電が叫ばれるようなら、「節電リニューアル」をするホールが増えるかもしれません。

「今年はホールにとって逆風が吹き荒れました。東京都の石原知事が震災後の電力不足にかこつけて自販機とパチンコはやめろと言いつたり、自主規制で夏の3か月間を輪番休業したりで、うちも売り上げが大きく前年割れました。そんな逆風に耐えてきました。10月になると業績が回復し、前年を上回る勢いが続いています。震災モードでパチンコを我慢していたお客様が戻ってきた感じですよ。業界の底力を実感する年でもありました」(関東・C店長)

パチンコは終戦の焼け跡からスタートしました。繰り返し規制やパッシングを受けてきましたが、そのたびにお客様の支持と業界人の努力で立ち上がってきたのです。

## 店長からの投稿

### コスト削減でトップに

「震災の話を書けば、うちの40代になって体力の衰えを感じていたところに、震災で自転車が見直されているというので、私も天気がいい日は自転車通勤を始めました。片道30〜40分なのでいい運動になります。3か月ほど続けると身体が軽くなって、久しぶりに若いスタッフに混じってフロア回りをやりました。思ったより体力が残っていることが嬉しくて、さらに休日はジョギングを始めたら体重が落ちて、20kmくらいは続けて走れるようになりました。将来はフルマラソンを走りたいと思うほどです。ホール勤務は体力が勝負といいながら、時間が不規則で運動する習慣がなくなります。遅番で帰宅すると夜食を食べて眠るから太る一方。少し早く家を出て自転車通勤すれば嫌でも足腰が鍛えられます。体力低下と体重増加に悩むホールスタッフにお勧めです。(関東・店長)

## 自転車通勤始め 身体が軽くなった スタッフにお勧め

今年のトップニュースはパチスロの復活です。人気機種が順調に育ち、パチンコを上回る稼働を上げるようになりました。振り返ってみると、パチンコが思わしくないときはパチスロが健闘し、パチスロがダメなときはパチンコが好調でした。全世代に受け入れられるパチンコがベースになって、ときどきパチスロに馴染む若いファン層が世代交代

## 死刑制度は世界の7割が廃止に 日本でもなかなか執行されない 死刑で殺人抑止出来るか議論を

2009年7月に大阪市内で起こったホール放火殺人事件の一審で、弁護側は「絞首刑は残虐な刑罰」であって、日本国憲法の「残虐な刑罰は、絶対にこれを禁ずる」(36条)などの条項に違反するとして違憲性を争いました。結果は合憲の判断でしたが、これを機に改めて死刑制度について考えてみます。

日本の法律では、内乱罪など他者の生命を奪わなくても死刑になり得ますが、実際は他者の生命を奪った場合にのみ死刑判決が出ています。死刑判決が確定したら法務大臣は6か月以内に死刑執行命令を出し、執行命令が出たら5日以内に死刑を執行しなければならないと刑事訴訟法は定めています。しかし現実には、判決が確定してから40年以上も執行されない死刑囚がいて、未執行者は100人を超えています。その理由は、死刑囚自身が再審請求をしていたり、法務省刑事局で裁判記録の審査を行ってえん罪の可能性があると判断されたり、健康上問題があったり、法務大臣が執行命令を出す意志がないなどがあげられます。

実際に再審で無罪になった死刑囚として、免田事件(拘置期間34年6か月)、財田川事件(同33年11か月)などがあるわけですから、死刑執行は慎重にならざるを得ません。

また、世界的に見ると死刑制度を廃止する国が増えて、現在約200か国のうち7割が廃止ないし事実上廃止(長期間執行なし)しており、先進国で死刑制度を存続させているのは日本と米国だけとされています。その米国も連邦法と35州の州法は死刑制度を存続させていますが、15州とワシントンDCでは死刑制度を廃止しています。

「死刑になりたくて人を殺した」と動機をのべる犯罪者もいるわけで、はたして死刑制度は殺人など凶悪な犯罪を抑止できるのか、また無期懲役(10数年で仮釈放されることがある)と死刑の間に終身刑が必要ではないか……などの観点から国民的な議論が必要な時期にきているのではないのでしょうか

(監修・日遊協顧問弁護士 堤義成、同 岩本康博)

するのでしょうか」(中部・D店長)

D店長によると、パチスロファンはある程度の年齢になると離れていくので、その連中をつなぎ止められるパチンコの開発に力を入れてほしいと言います。

「これまでの努力が実って、今年地域一番店の座を獲得しました。うちの地域は同業が5店あるのですが、当店はいつも2番手に甘んじていました。昨年から『行くぞ! 一番店』を合い言葉に、イベント内容や会員制の特典を全面的に見

直し、さらに割数を上げて、徐々に稼働率をアップしてきました。そして遂にライバル店を抜いたのです。やはり決め手は割数アップ

II 経費削減でした。無理なコスト削減は長続きしません。景品の仕入れやメンテナンスの見直しなどで大幅にコストを削減できたのです」(近畿・E店長)

人件費や設備費などは売り上げに関係なくかかる経費です。売り上げが伸びれば、その経費率は下がり、その分を割数アップに回せ

### 景品の充実が収益に

ます。それが地域一番店のメリットであり、2番手以下を抑えることができる理由なのです。

「今年は大衆娯楽の原点に帰ろうということで、全社的に景品持ち帰り運動を始めました。もちろん掛け声だけでなく、景品コーナーを増設して、ビール、ミネラルウォーター、お米、洗剤、トイレットペーパーなど家庭の必需品を取り揃え、大型カートも用意したの

で、まるでスーパーの売り場のようです。お客様のリクエストで、カップ麺やレトルト食品、冷凍食品など品数も増やした結果、一般景品が昨年の3倍近く出るようになりました」(関東・F店長)

景品提供のあり方に関して行政から指導が出ていますが、スーパー並みの「明朗会計」にすればよいのです。

### 効果大きい「遊び研修」

「今年から従業員研修の一環として各種アミューズメント施設の視察を始めました。本社の社員教育担当の指示ですが、ホール業とテーマパークは、設備産業、娯楽産業、接客業という共通点があり、スタッフの勉強になることが多いのです。従業員たちは研修というのに堂々と遊びに行けると喜んでます。それでも、研修から帰ってくる、接客で笑顔が増え、動作がキビキビしてきます」(関東・F店長)

人のふり見て、わがふり直せ——というわけです。今年は何年分もの出来事がどっと押し寄せ、それだけに苦勞も多かったことでしょう。しかし、苦勞は成長の肥やしです。近い将来、花開くことを願っています。